

# き ぼ う

青少年育成広報

第31号  
 発行人  
 青少年育成那珂市民会議  
 会長 関 守



水戸市少年自然の家にて (R元. 6. 8)

第15回 親子の集い「フォトラリー」 (新型コロナウイルスの影響により各行事が中止となったため、昨年度の写真を掲載しています。)

## 友達

わかすぎ学園 那珂市立菅谷東小学校

四年 大竹 はるか

道徳の授業で、「よい友達関係のために大切なこと」について話し合いました。

私は友達の間違った時に、正しいことが伝えられるか迷いました。その理由は、相手がいやな気持ちになると思ったからです。

でも、みんなの話を聞いて、友達とさらに良い関係になるためには、相手を信頼することや相手を思い合うことが大切なことだと気づきました。

もし、友達が間違っていたら、私の友達なら正しいことを伝えても分かってくれと信じます。そして、さらに良い友達になっていきたいと思っています。

## 好虹色——虹——

ばら野学園 那珂市立第一中学校

九年 金井塚 萌

私たちの今年度のスローガンは「好虹色」と書いて「こころ」と読む。「好虹色」には自分や相手を好きになる、虹のようになど色々な意味がある。

このスローガンをもとに自分をより自分らしくし、お互いの個性を認め合える学校を目指していきたい。そして、それぞれ思い描く学校を伝え合うことで、みんなで更に素晴らしい学校をつくっていかうと思う。

## 青少年健全育成のまち宣言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。

「イキイキ、ワクワク」  
筑波大学村上名誉教授の仮説



青少年育成那珂市民会議  
会長 関 守

新型コロナウイルスの世界的な蔓延が収束の兆しが見えませんが、

今や医療をはじめ政治、経済、教育、文化、スポーツなど社会のあらゆる分野に深刻な打撃を与えています。

筑波大学の村上名誉教授は、新型コロナウイルスは「サムシング・グレート」(遺伝子の偉大な働き)からのメッセージではないかと言っています。

今回のパンデミック(世界的流行)によって、私たちの意識は全て変えられてしまいました。

今後は、私たちはどのように進むべきか、その鍵が、一人ひとり違うユニークな遺伝子を「ON」にしていくことにあると思っっているそうです。

では、日々の幸せを掴むためには、私たちの遺伝子をどう働かせればよいのでしょうか。それは、日常生活を澁刺と前向きに生きる事。イキイキ、ワクワクする生き方こそが、人生を成功に導いたり、幸せを感じたりするのに必要な遺伝子を「ON」にするという仮説です。

幸せに関係する遺伝子は、誰の遺伝子にも存在しています。今まで眠っている「OFF」になっていた遺伝子を起こして働かせること、つまり、私たちの心の持ちようや生活態度によって変わりが得ることが可能なのです。

副会長です  
宜しく願います



那珂市子ども会育成連合会会長  
高垣 昌之



那珂市 PTA 連絡協議会会長  
大曾根 香澄



那珂市青少年相談員連絡協議会副会長  
山田 修



那珂市連合民生委員児童委員協議会会長  
大和田 優

令和2年度 事業計画 (予定)

月	主 な 事 業 (実施場所)
5	第1回企画委員会【中止】
6	第16回「親子の集い」(水戸市少年自然の家)【中止】 総会・第1回合同専門部会【書面決議】
7	「青少年の非行・被害防止全国強調月間」 第2回広報部会 第2回育成部会 那珂市子ども会親睦競技大会(那珂総合公園)【中止】
8	第2回家庭部会 第2回企画委員会
9	第3回広報部会
10	「青少年の主張」発表大会並びに表彰式典【中止】 第4回広報部会 広報紙「きぼう」第31号発行 「親が変われば、子どもも変わる」運動那珂市推進大会【中止】
11	市民会議による「あいさつ・声かけ運動」(各地域)
12	「家庭の日」図画・作文発表会並びに表彰式典【中止】 第3回家庭部会
1	第3回育成部会 第5回広報部会 第3回企画委員会
2	第6回広報部会 善行青少年表彰 ※那珂市教育表彰及び小中一貫教育発表会にて【中止】
3	第4回企画委員会 広報紙「きぼう」第32号発行

令和二年度青少年育成那珂市民会議  
基本方針と重点目標

基本方針

未来を担う青少年が、心身共に健やかでたくましく、自主性・社会性に富んだ人間に育つことは、地域住民の願いである。

しかしながら、家庭や地域の教育力の低下や、大人の規範意識の低下、情報化社会の進展等により人間関係の希薄化が進み、青少年をとりまく状況は、いまだ厳しいものがある。  
青少年育成那珂市民会議では、これらの状況を踏まえ、青少年の健全育成のために取り組んでいく。

重点目標

- (1) 青少年のための地域との協働による地域体制づくり
- (2) 健全な家庭づくりの推進
- (3) 広報活動の充実強化

具体的実践事項

- (1) 「あいさつ・声かけ運動」を進める
- (2) みんなで地域づくりをする：地域づくり活動
- (3) 子どもたちに各種の活動への参加を勧める
- (4) 令和二年度 重点推進事業：「親が変われば、子どもも変わる」運動

# 構成団体紹介

## 保護司について

那珂地区保護司会

那珂分会代表 助川 勇

保護司は、法務大臣から委嘱される非常勤の国家公務員という身分で給与が支給されない民間ボランティアです。会社などを定年退職された方、現在仕事をされている方、主婦の方など様々の方が保護司になっています。

保護司になるためには、原則として六十五歳以下である事、保護司活動に熱意があり時間的な余裕がある事、健康である事、などいくつかの条件があります。

具体的活動としては、  
①保護観察を受けている人（保護観察対象者）と面接を行い、指導や助言をする。

②刑務所や少年院にいる人が施設を出た後に、帰る場所の環境を調整する。

③犯罪や非行を予防するために、地域で啓発活動をする。

④保護司の活動に必要な関係者や協力者ネットワークづくりをする。  
保護司は、個別に活動する事もあれば、保護司会単位の活動になることもあります。

保護司会として念願だった「更生保護サポーターセンター」が令和元年四月十九日に那珂市役所瓜連支所に開所され、企画調整保護司一六名が



交代で週三日、月・水・金曜日に常駐しております。  
令和二年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため水戸保護観察所の指導により、研修会、「社会を明るくする運動」、毎年小中学校の皆様に協力をお願いしている作文コンテストへの作品応募、大型スーパー店頭での街頭キャンペーンなどが中止になり、のほり旗、ポスターの掲示のみの活動でした。

# 令和二年度「青少年の主張」発表大会（中止）

令和二年十月三日（土）に総合センターらぼーるで予定していましたが「青少年の主張」発表大会が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため残念ながら中止になりました。

この大会は、青少年が日常生活の中で感じたことや考えていることを広く社会に訴えることにより、将来に向かって自信と誇りを持つとともに、青少年の健全育成に対する市民の理解と関心を高めることをねらいとして、毎年開催しています。

本年度は、発表大会は中止になりましたが、素晴らしい主張文を応募いただきました市内の全中学校、水戸農業高校、那珂高校、那珂市消防本部の代表十四名のテーマとお名前を紹介します。なお、那珂市立第二中学校の海老根太一さんは、県内で十名選出される優秀賞を受賞しました。

## 各中学校代表者

笑いの力

ばら野学園 第一中七年 海老根太一

「あたりまえの生活」から

ばら野学園 第一中九年 金井塚 萌

岐路に立つ私たち

青遙学園 第二中八年 大越 生成

私はイエローでちよつとグレー

青遙学園 第二中九年 樋口 結心

生き物を人間は守れるのか

緑桜学園 第三中八年 仲田 葵

差別とデモ

緑桜学園 第三中八年 仁衡 理音

これからの社会とわたしたち

わかすぎ学園 第四中七年 横山 瑠美

自然災害で被害にあう人を少なくするためには

わかすぎ学園 第四中八年 石川 湊大

黒人差別について

白鳥学園 瓜連中九年 須田 夢麗

愛のある言葉をあなたに

白鳥学園 瓜連中九年 野上 和華

## 高等学校・特別参加（消防署）

ボランティア精神

水戸農業高校 二年 檜山 志歩

人種差別について

那珂高校 二年 寺門 瑠菜

あなたにも救える命

那珂市消防本部 大久保 洸弥

救急隊と市民の溝

那珂市消防本部 松岡 智徳



子どもの会のバーベキュー夏祭り

六年 館 采花

私は、戸多小あと地で行われる子ども会のバーベキュー夏祭りに毎年参加しています。バーベキューでは、自分たちで焼く、焼きマシユマロが好きです。こんがり上手に焼けると、とてもおいしいです。花火もやります。色々な種類があり、色も、とてもきれいで楽しいです。

私が特に好きなのは、きもだめしです。国神社社という神社に、子ども会のメンバーといっしょに歩いて行き、神社の後ろを回って帰ってきます。中学生や大人が電話を鳴らし、私たちをおどろかせます。とてもこわいですが、友達と一緒なので大丈夫です。

しかし、今年は、コロナウイルスのえいきようでできませんでした。毎年楽しみにしていたので残念ですが、来年の夏祭りを楽しみにしています。そして、これからもずっと、この楽しい子ども会のバーベキュー夏祭りが続いてくれたらうれしいです。

芳野小でのコロナ対策

六年 長山 颯真

私は六年生、小学校最後の一年だ。先生や友達とたくさんの思い出をつくらうと思っていたが、新型コロナウイルスのえいきようで日常生活が変わってしまった。休校中、友達に会いたかったし、勉強面も不安だった。

学校が再開したときは、友達に会えてうれしかった。以前学校では、四人グループで給食を食べたり、友達とたくさん話したりできた。

今は、みんな前を向いて、向き合わずに給食を食べたり、席と席をはなしてソーシャルディスタンスを保つたりしてなるべく話さないようにしている。やりたいことはたくさんあるけれど、コロナウイルスが収束するまでがんばってガマにするんだ。

いつか大人になって、「あの時はこうだったね。」「あんなこともあったよね。」と笑って話せることを信じて、毎日を大切に過ごしていきたいと思う。



まちづくり委員会



菅谷地区まちづくり委員会の事務局は、小学校の敷地内にあります。

平日頃から、子供たちの元気な声に包まれ、地域の皆様の姿を身近に感じながら日常を過ごしております。

しかし今年の春から、コロナ禍により那珂市の施設の使用停止や利用制限が行われ、学校も休校となりました。

まちづくり委員会でも事務所の閉鎖という事態になってしまいました。

地域と、人と人との繋がりを大切に活動してきた事業もストップしてしまいう中、今何ができるのかを考え、コロナが収束した時には、いつでも活動が再開できるように粛々と準備をすると共に、活動が停滞や後退しない方法を模索しているところです。

現在に至っては、非常事態宣言も解除されて、学校には子供たちの元気な姿と声が戻り、生き生きとした空気に包まれて過ごせる幸せを感じています。

今後まだまだ予断を許しませんが、将来を担う子供たちが少しでも笑顔で過ごせるよう、まちづくりとしても見守っていきたく考えています。

さて、今年の夏はいかが過ごされましたでしょうか。

様々な制限を強いられる中、里帰り

や旅行を自粛する方、人と人が繋がっていくための様々な知恵と工夫がニュースとなりました。お墓参りの代行やネット旅行も登場しました。

私の子も自立し親元を離れ一人暮らしをする中、コロナ禍以降、まったく帰省が出来ず、その間メールと電話で寂しさを補っていました。

一日も早く通常の生活に戻り誰もが笑顔で人の目を気にせず故郷に帰れるようになる日を願うばかりです。



昨年度実施した「菅☆まち☆カフェ」

編集後記

本誌に寄稿していただいた皆様に感謝申し上げます。

出口の见えない、新型コロナウイルスとの戦いで、子どもたちが楽しみにしていた「親子の集い」「親睦競技大会」や、各地区祭事などが中止になりました。子どもたちの元気がなくなるのではと心配しましたが、登下校時に交わす元気な挨拶で、杞憂に過ぎませんでした。

コロナ禍中、親や大人が浮き足立つことなく、守るべきルールはきちんと守り、次代を担う青少年の手本となれるように、日々努力しなければと考えています。これからも皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

広報部会長 袴塚 耕二